

化学物質リスクコミュニケーションに関する 事例発表 交流会

会場 :NOK株式会社 福島事業場様
研修センター

2008年12月16日
福島キヤノン株式会社

総務部 安全 環境課
石山 博

1

キヤノングループについて

主なキヤノン製品

コンシューマ / ビジネス / インダストリ

映像事務機



カメラ



レーザービーム
プリンタ



インクジェットプリンタ



光学機器



ディスプレ
イ



化成品



2

福島キヤノン株式会社

2003年4月
地域に根ざした新会社としてスタート

1969年
「福島キヤノン株式会社」
設立

1970年4月
操業開始

1978年1月
キヤノン株式会社へ合併

2003年4月
「キヤノン株式会社」
より分社独立し
「福島キヤノン株式会社」へ



迅速な意思決定

高付加価値型量産拠点として
国際的な競争力を養う

3

会社概要

名称 福島キヤノン株式会社
所在地 福島市佐倉下字二本榎 2番地
資本金 8,000万円
売上高 716億円 (2007年12月期)
従業員数 1,218名 2008年1月現在
(正社員のみ)
男性 722名 / 女性 496名
事業内容 ・インクカートリッジの生産
・インクジェットプリンタ製品の
主力会社
・ソフトウェアの品質評価



4

福島キヤノン (株) 会社理念 (ビジョン)

< 会社理念 >

キヤノングループの一員として理想の会社を築き、
全員の幸福と永遠の繁栄を目指す

< 3つの経営方針 >

1. 時代を読み、変革を求め、限りなく前進する
2. 豊かな発想と知恵で理想のモノづくりを追求する
3. 高く広い技術・技能のキラリと光る人をつくる

福島キヤノン 主要製品

フ
ア
イ
ン
カ
ー
ト
リ
ジ
ジ



BC-70



BC-71

プ
リ
ン
ト
ヘ
ッ
ダ



PIXUS iP4200
(ZF557)

イ
ン
ク
タ
ン
ク



BCI7 e



BCI3 eBK

プ
リ
ン
タ



PIXUS Pro9500

キヤノングループ環境憲章

企業理念

共生」

世界の繁栄と人類の幸福のために貢献すること
そのために企業の成長と発展を果たすこと

環境保証理念

世界の繁栄と人類の幸福のため、資源生産性の最大化を追求し、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

環境保証基本方針

すべての企業活動、製品、およびサービスにおいて
環境と経済の一致を目指し(EQCD思想)
資源生産性の革新的な改善により、
“環境負荷の少ない製品”を提供するとともに、人の健康と安全
および自然環境を脅かす反社会的行為を排除する。

7

【EQCD思想】

E :Environment(環境保証)	環境保証ができなければ 作る資格 がない
Q :Quality(品質)	品質が良くなければ 売る資格 がない
C :Cost(コスト)	コスト、納期が達成できなければ 競争する資格 がない
D :Delivery(納期)	

8

環境保証基本方針（詳細）

1. グローバルな環境保証推進体制 組織を最適化し、グループの連結環境保証を推進する。
2. 製品のライフサイクル全体の環境影響を評価し、環境負荷の極小化に配慮する。
3. 環境保証に不可欠な環境保証技術とエコ材料等の研究・開発を推進し、その成果を広く社会へ還元する。
4. 企業活動のあらゆる面で、国/地域の適用される法律、およびその他の利害関係者との合意事項を遵守すると共に、省エネルギー、省資源、有害物質の廃除を推進する。
5. 必要な資源の調達 購入に際して、より環境負荷の少ない材料・部品・製品を優先的に調達 購入する。(グリーン調達)
6. EMS (環境マネジメントシステム) を構築し、環境目的・目標を定めて定期的に見直し、環境汚染・災害の防止と環境負荷の継続的な改善を行う。
7. **すべての利害関係者に対し、環境負荷と環境対応状況を積極的に公開する。**
8. 社員一人ひとりの環境意識を高め、自らが環境保全活動を遂行できるよう環境教育・啓発活動を展開する。
9. **行政機関、地域や関係団体等との連携を密にし、社会全体の環境保全活動に積極的に参画・支援・協力する。**

9

環境報告書 (Canon Sustainability Report)

< 環境報告書抜粋資料 >



「リンク先」キヤノン(株)ホームページ
<http://canon.jp/ecology/report/index.html>

目次	
経営者からのメッセージ	3
ビジョンと戦略	
・イノベーション推進戦略	5
・グローバル調達戦略	7
サステナビリティの概要	
・サステナビリティ推進の目的	11
・経営方針	12
・コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス	17
・環境の概要	19
・環境と人財の概要	22
・社会・文化の概要	25
マテリアリティ	
・ユーザー・コミュニティ	21
・環境・社会	28
・製品・サービス	36
・サプライチェーン	37
キヤノンの環境政策	
・環境政策の概要	41
・環境政策の推進体制	49
・環境政策の推進状況	53
・環境政策の推進成果	55
・環境政策の推進課題	59
・環境政策の推進展望	61
キヤノンのステークホルダー	
・環境とのかかわり	63
・株主・投資家とのかかわり	67
・サプライヤーとのかかわり	69
・顧客とのかかわり	71
・社会・文化とのかかわり	75

10

環境報告書 (Canon Sustainability Report)

< 環境報告書抜粋資料 >

キヤノンとステークホルダー

お客様とのかかわり

2007年度の
ハイライト

●お客様からのより一層の「言葉・音」の聴取のために、「環境報告書に関する顧客対話」を実施しました。
●5月1日新製品「速写」の発表を機に開始しました。

Web
●Web上で最新情報
●Web上で最新情報
●Web上で最新情報

「Canon Quality」の真摯な気持ち

●Canonは、「お客様」の声を聞き、真摯な気持ち
●Canonは、「お客様」の声を聞き、真摯な気持ち

2007年度「Canon Quality」を軸とした
2007年度「Canon Quality」を軸とした

●お客様からのより一層の「言葉・音」の聴取のために、「環境報告書に関する顧客対話」を実施しました。

●5月1日新製品「速写」の発表を機に開始しました。

●お客様からのより一層の「言葉・音」の聴取のために、「環境報告書に関する顧客対話」を実施しました。

●5月1日新製品「速写」の発表を機に開始しました。

●お客様からのより一層の「言葉・音」の聴取のために、「環境報告書に関する顧客対話」を実施しました。

●5月1日新製品「速写」の発表を機に開始しました。

●お客様からのより一層の「言葉・音」の聴取のために、「環境報告書に関する顧客対話」を実施しました。

●5月1日新製品「速写」の発表を機に開始しました。



キヤノンとステークホルダー

地域・社会とのかかわり

2007年度の
ハイライト

●教育省「ふるさと（中核）の発展」を支援するプロジェクトを開始しました（※P22）。

社会貢献活動

●教育省「ふるさと（中核）の発展」を支援するプロジェクトを開始しました（※P22）。

キヤノンが、教育省「ふるさと（中核）の発展」を支援するプロジェクトを開始しました（※P22）。

●教育省「ふるさと（中核）の発展」を支援するプロジェクトを開始しました（※P22）。



福島キヤノンホームページ

福島キヤノン(株) 地域との交流について公開

福島キヤノン(株)ホームページにて「地域との交流」などについて公開しています。

< 地域との交流公開資料抜粋 >

会社情報 | 事業内容 | 環境・社会責任 | 地域との交流

地域との交流 Social and cultural support

HOME > 地域との交流

地域の皆様に愛される会社をめざし、地域社会貢献活動を積極的に推進しています

福島キヤノンは地域から愛される会社づくりのため、地域社会活動への参加・協力、地域貢献活動の推進、子供のための社会見学などの取り組みを積極的に行っています。福島キヤノンはこれからの地域社会の発展に貢献していきます。

「リンク先」福島キヤノン(株)ホームページ
<http://www.fukushima-canon.co.jp/>

● 地域社会貢献活動の推進、環境学習推進の推進

福島キヤノンは、環境保全活動への参加・協力、地域貢献活動の推進、子供のための社会見学への取り組みを積極的に推進しています。その中の環境学習推進では、現在深刻な問題となっている地球温暖化と、地球環境問題に取り組む、子供連れの地球環境学習の取り組みを行っています。

内容

授業前半(45分)： 子供連れの地球温暖化の原因やキヤノンのグリーンオフィスに関する環境教育プログラムを、授業後半(45分)： 環境学習の推進、子供連れの地球温暖化と、地球環境問題に取り組む、子供連れの地球環境学習の取り組みを行っています。



2007年福島県立茨原小学校での様子

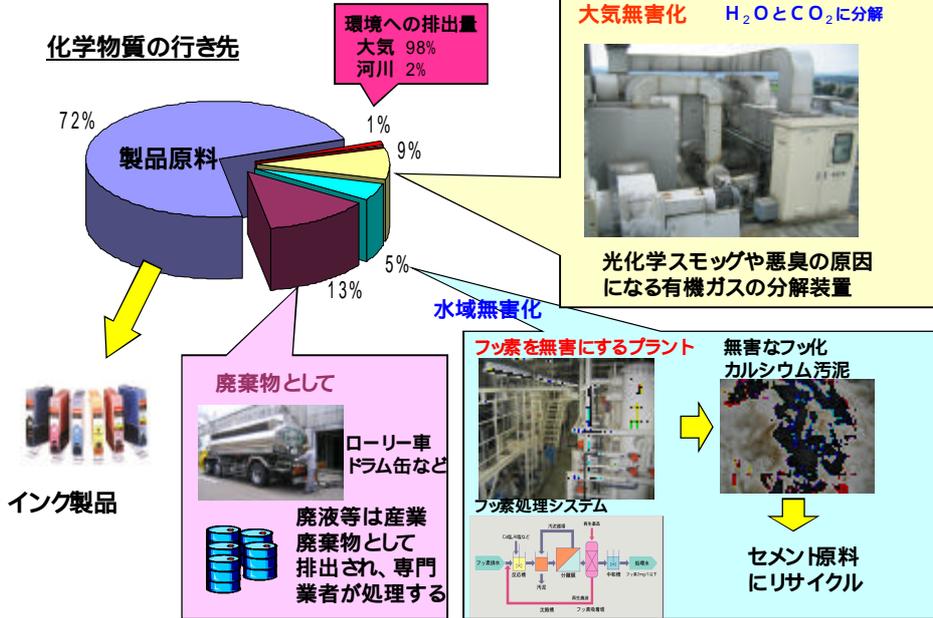


2008年12月12日での様子

福島キヤノン (株) 環境取組み紹介
化学物質管理

2008年8月8日の納涼祭、オープンハウス (工場見学会) 公開資料抜粋

化学物質の行き先



福島キヤノン (株) 環境取組み紹介
省エネルギーの取組み

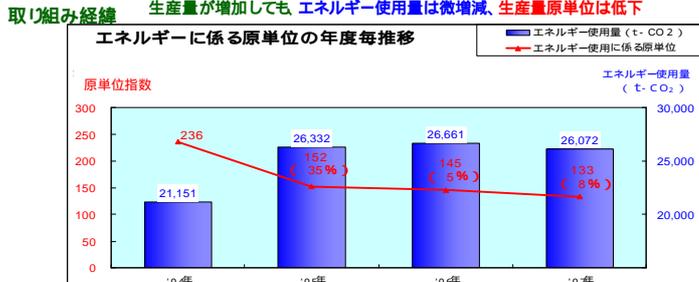
2008年8月8日の納涼祭、オープンハウス (工場見学会) 公開資料抜粋

福島キヤノンが使用するエネルギー量

二酸化炭素換算で 26,000トン・CO₂/年 → 一般家庭の、7,400軒分です。
 ほぼ、飯坂地区の家庭分に相当します。
 (一般家庭の二酸化炭素排出量は、約3トン・CO₂/年)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
建物・付帯設備			インバータ化				
冷暖房機器			空調間欠運転				
照明機器			照明高効率化/人感センサー/調光				
電気機器			フリ-クリング方式導入/台数制御導入				
生産装置			ベルト方式/セル生産				
ベルトコンベア成型機			待機電力停止/昼休み消灯				
			成形機作動油改善				
			成形機を油圧式/電力式へ				
			無人稼働装置消灯/サーバー統合				

製品1ヶ当りにかかるエネルギー量は、毎年下げています。
 生産量が増加しても、エネルギー使用量は微増減、生産量原単位は低下

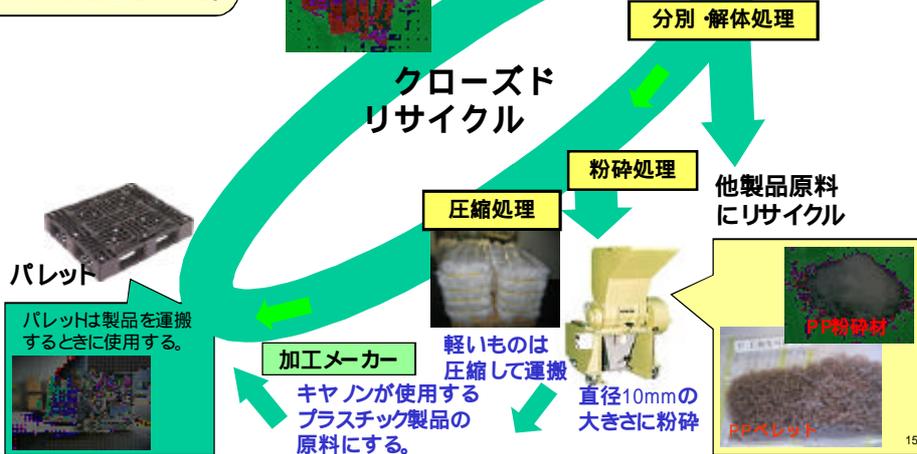
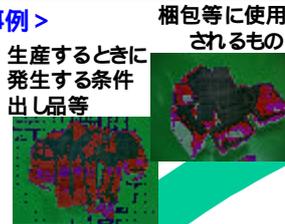


福島キヤノン(株) 環境取組み紹介
排出物発生抑制の取組み

2008年8月8日の納涼祭、オープンハウス(工場見学会)公開資料抜粋

<プラスチックのリサイクル事例>

廃棄物は可能な限りキヤノンが使用するものにリサイクルする取組みを推進している。



福島キヤノン(株) 環境取組み紹介
自然環境を守っていくための取組み

2008年8月8日の納涼祭、オープンハウス(工場見学会)公開資料抜粋

福島キヤノンは日本一の清流「荒川」を守るため、国の排水基準よりきびしい自主基準を設定し、排水を浄化し荒川に放流しています。

各種排水処理設備による汚れの浄化



放流水の連続監視

50項目の環境測定を実施(国・県の基準を満足)

福島キヤノン リスクコミュニケーションの考え方

【防向性 考え方】

これまで地域、行政の方々を招待した納涼祭・オープンハウス（工場見学会）の開催、ホームページの公開、環境報告書の発行、清掃活動への参加などを行ってきておりリスクコミュニケーションを行う上での下地ができていると考えられ以下の通り実施していく

<実施方法>

- 福島キヤノンを知ってもらうことに重点を置き、納涼祭のオープンハウス（工場見学会）の企画にあわせ、パネルの展示、説明などで環境の取組みを公開していく
- 公開内容は環境の取組み全般、化学物質排出管理、防災の取組みなど幅広い取組みを紹介していく
- 小さい規模で始まり状況を確認しながら改善し、より良い方向に展開していく
- 地域社会貢献活動などもコミュニケーションととらえ推進していく

17

福島キヤノン（株）リスクコミュニケーション概要

<主な活動一覧>

内容	手段・頻度等	備考
環境報告書 (Canon Sustainability Report)	ホームページ、冊子 (常時公開)	方針、環境の取組み(環境改善)
キヤノン株式会社及び 福島キヤノン株式会社ホームページ	ホームページ(常時公開)	地域との交流、環境の取組み
納涼祭、 オープンハウス(工場見学会)	1回/年(8月) 2008年度より実施	納涼祭に合わせオープンハウスを実施し、 その中で環境の取組みのパネルを展示
環境出前授業	2~4回/年	子供達を対象に実験・プリンタ解体をとおし 環境について理解を深める
工場見学等受入れ	随時受入れ	子供達を対象に受入れを実施
地域の清掃活動	自主的实施及び福島市・地 域協議会等に主催へ参加	信夫山清掃、荒川河川敷草刈り、地域の ゴミひろい等を実施
その他各種展示会・イベント等へ の出展	随時出展	2006年もったいない福島、2007年技能 フェスティバル、2008年ふくしま環境 エネルギーフェア(予定)

18

2008年 納涼祭、オープンハウス (工場見学会)

【開催日時】

2008年 8月 8日 (金) オープンハウス ;14:30~ 16:30
納涼祭 ;17:30~ 20:30

【参加者】

オープンハウス ;209名 福島キヤノン従業員家族、福島キヤノン退職者、
近隣の方々 (大人26名)

納涼祭 約3,000名

【オープンハウス概要】

・工場見学 (グループに分かれて生産ライン、福利厚生施設等を見学)
・環境関連取組みのパネル展示
福島キヤノン環境方針、廃棄物管理、化学物質管理、省エネの
取組み、排水処理・環境測定、地域社会貢献

【納涼祭概要】

・出店、余興、花火大会等を実施

19

2008年 オープンハウス (工場見学会)風景

オープンハウス受付 (記念撮影)



工場見学 (担当より説明)



工場見学 (担当より説明)



工場見学 (担当より説明)



20

2008年 オープンハウス (環境の取組み紹介) 風景

オープンハウス主会場 環境取組み展示
(A1サイズ11枚、サンプル、環境報告書)



会場全景



パネル展示内容について説明



展示品見学者



21

2008年 納涼祭風景

福島キャングラウンドにて開催



吹奏楽の実演



太鼓の実演



打上げ花火



22

「プリンタを使って環境の大切さを学ぼう」

【目的】

地域の子供たちに、現在深刻な問題となっている地球温暖化の環境問題を取り上げ、地球環境を守ることの大切さを伝える。

【授業内容】

プレゼン資料、DVD等を使用して環境問題を説明
 二酸化炭素を使用して地球温暖化の実験
 紫キャベツを使用して酸性雨の実験
 実際にプリンタを分解してリサイクルされる仕組みを学ぶ

【2008年開催一覧】

日時	4回開催 / 2008年	・5月17日(土)、7月26日(土) 9月20日(土)、11月1日(土) ・10:30~12:00(1.5時間)
場所	子供の夢を育む施設 「こむこむ」	
参加人数	小学4~6年生 27名	
講師	福島キヤノン 社員	

授業風景

授業開始前に記念撮影 (写真は授業後全員にプレゼント)



プレゼン資料により説明 (地球温暖化、3Rなど)



空気と二酸化炭素を入れたガラス瓶を電球で加熱、それぞれの温度変化を確認 (二酸化炭素の方が温度が上昇)



紫キャベツを使用し酸性雨の実験 (紫キャベツの絞り汁により酸性・アルカリ性が確認できる)



授業風景

実際にプリンタを解体



実際にプリンタを解体



プリンタのカバーを外した状態で印刷
(プリントの仕組み、ものづくりのすばらしさを体感)



材質ごとに分けてリサイクルされることを学ぶ



25

地域の清掃活動

環境地域社会貢献活動

< 主な取組み一覧 > 2008年実績

内容	信夫山クリーンアップ作戦	第1弾 荒川クリーンアップ作戦	第2弾 荒川クリーンアップ作戦	会社周辺 美化清掃
日程	3月30日(日)	5月31日(土)	9月7日(日)	8月26日(火)
場所	福島市 (信夫山)	福島市 (荒川)	福島市 (荒川)	会社周辺 道路
主催	福島市	ふるさとの川 荒川づくり協議会	ふるさとの川 荒川づくり協議会	福島キャン
参加人数	60名	54名	43名	17名
概要	信夫山の清掃作業 (ゴミ拾い)	荒川堤防のツタ等の除去、下草刈り	荒川堤防のツタ等の除去、下草刈り	国道115号線のゴミ拾い

26

環境地域社会貢献活動 実施状況 (2008年)

信夫山クリーンアップ作戦 (6月30日)



第1弾 荒川クリーンアップ (6月31日)



国道115号線ゴミ拾い (8月26日)



第2弾 荒川クリーンアップ作戦 (9月7日)



27

地域環境保全功績者表彰

福島市制施行100周年シンボル事業「信夫山の自然に親しむつどい都市緑化 環境フェア」の席上、地域環境保全功績者として福島キヤノン(株)が感謝状を受けた。(15の個人・団体が受賞)

【授賞日】 2007年6月2日(土)

【主な理由】

会社周辺道路清掃、及び市・他団体等が主催する環境保全事業(信夫山・荒川のクリーンアップ等)へ参加・協力(環境地域社会貢献活動の取り組みが福島市より認められた)

瀬戸孝則福島市長より表彰状授与



瀬戸孝則福島市長を囲み、受賞者にて記念撮影



28

福島キヤノン 工場見学受入れ
ごみの未来を考える親子見学会

【目的】循環型社会の形成に向け、廃棄物の発生から処理、リサイクルまでの一連の過程を学ぶ見学会を開催し、廃棄物の処理に関する正しい知識と必要性についての普及啓発を図る

【主催】福島県東北地方振興局（県民環境部環境課）

【実施概要】

開催日時：2008年7月31日（休）13:30～15:00（福島キヤノン見学時間90分）

内容：東北地方振興局内にて座学、廃棄物処理施設見学、福島キヤノン工場見学

<福島キヤノン見学>

・福島キヤノンの環境の取組み

・福島キヤノン環境関連施設見学

廃棄物排出場所、一般ゴミ、段ボール、金属屑、紙等の排出場所

排水処理設備、着色廃液処理設備、排水処理設備（工程系、設備系）

参加人員：親子42名、東北地方振興局職員様6名 合計48名

29

ごみの未来を考える親子見学会 写真

見学前に注意点・環境取組み説明



工場見学 工場排水処理設備



工場見学 リサイクル作業



工場見学 着色排水処理設備



30

福島キヤノン 工場見学受入れ

福島キヤノン ものづくり体験

【工場見学 (ものづくり体験) 目的】

- ・第5学年の社会科で学習している「我が国の工業生産」の中で、様々な工業製品が国民生活を支えていることを物づくり体験を通して知る。
- ・環境と生産を両立させるために企業が取り組んでいる姿を通して知り、その重要性、すばらしさを知る。
- ・工業生産に従事している人々が原材料の確保や製造の過程、新しい技術の開発、環境保全への取り組みなどにおいて、様々な工夫や努力をしていることを知る。

【実施概要】

- 開催期間 : 2008年9月24日(水)・25日(木)・26日(金) 13:30~15:25
- 主催 : 福島県職業能力開発協会
- 会場 : 福島キヤノン(株)
- 参加者 : 福島市立鳥川小学5年生 87名(1組~3組)

【方法】

- 福島キヤノン紹介(DVD)、工場見学
- ・プレゼン資料で子供たちと地球温暖化の原因、酸性雨の実験・プリンターを事例に環境へ配慮した取組みを説明。
- ・実際にプリンタを解体し分別することによって資源としてリサイクルされることを学ぶ

31

実施状況写真

環境問題の全体概要説明



プリンタの外装カバーを外し印刷の仕組みを実演 (ものづくりのすばらしさを体感)



紫キャベツを使用して酸性雨の実験 (マッチを燃やし、煙を水に溶かし酸性雨作成、PHを確認)



プリンタを分解することで、分別・リサイクルできることを体感



32

社員の地域環境への意識付け

《荒川探訪会》「知られざる秘境を訪ねて」企画へ参加

【概要】

日本一きれいな川、また名水100選にも選ばれている荒川へ福島キヤノンから年間50万以上の排水を浄化し排出している。環境保全(水質)の重要性を認識することを目的に、ふるさとの川 荒川づくり協議会主催の荒川探訪会へ参加した。

【日時】 2008年10月19日(日)9:00~13:00

【主催】 ふるさとの川 荒川づくり協議会

【参加者】

福島キヤノン参加者:25名、社員家族2名、合計27名

全体参加者:79名(福島キヤノン27名含む)

【ルート】

荒川資料室? 古い霞堤? 荒川堰取水口? 水天宮? 地藏原堰堤? 荒川遊砂池大暗渠?
荒川第3床固工? 荒川第5堰堤? 塩の川合流点? 荒川第1堰堤? さざれ石? 天沼のへつり

33

知られざる秘境を訪ねて 参加状況(2008年)

地藏原堰堤にて記念写真



荒川第5堰堤前にて記念写真



荒川(岩場)を横断



荒川第1堰堤上の川を足を濡らしながら対岸へ渡る



34

各種展示会 イベント等への出展

うつくしま、ふくしま ものづくりフェスタ 第24回福島県技能フェスティバル

【目的】

福島県の技能の振興を促進するため、名工による卓越した技をはじめ、ものづくりに関わる方々の日頃培ってきた技能を広く県民に公開し、技能の重要性 魅力をアピールすることにより、ものづくりを通じた人づくりの大切さを伝え技能尊重機運の醸成と高揚を図ることを目的とする。

【実施概要】

開催期間 :2007年10月6・7日 10:00~ 16:00

会場 県営あづま総合体育館

主催 福島県、福島市、福島県職業能力開発協会、福島県技能士会
連合会、福島県名工会

【参加者】

フェスティバル全体来場者 約1万人(主催者発表)

福島キャンパス 参加者 10名

35

第24回福島県技能フェスティバル 写真

県営あづま総合体育館内全景 福島キャンパス



ステージでのプリンタ解体実演



会場ステージでの実演日程

日時	種目	講師
11:00~	デジタルカメラの活用	福島県立総合技術センター
11:45~	アクリル加工の体験	福島県立総合技術センター
13:30~	かわらぶき体験	福島県立総合技術センター
14:30~	カクテル体験	福島県立総合技術センター
10:30~	プリンタの分解・実演	福島県立総合技術センター
10/7	餅	福島県立総合技術センター
12:00~	東北産の食材を使った料理	福島県立総合技術センター
13:30~	福島の産物	福島県立総合技術センター

福島キャンパス(記念写真撮影及びプリントアウト)



36

各種展示会 イベント等への出展

「もったいない福島 2006」

【日時】

2006年10月23日(月) 13:00 ~ 17:00
10月24日(火) 9:30 ~ 15:30

【会場】

ビックパレット福島(郡山市安積町)

【主催】

もったいない福島2006運営協議会

(構成員) 福島県、郡山市、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、
福島県自動車販売店協会、うつくしまエコリサイクル製品認定事業者
協会、NPO法人ザ・ピープル、うつくしま環境パートナーシップ会議

【来場者】

約2,500名(主催者発表)

37

「もったいない福島 2006」出展

オープニングセレモニー



福島キャンションブース(環境の取組み紹介)



全体出展状況



講演、関係会社等の取組みの紹介



38

**化学物質リスクコミュニケーションに関する
事例発表 交流会**

ありがとうございました。

2008年12月16日
福島キヤノン株式会社

総務部 安全 環境課
石山 博